

【小学校高学年の部・最優秀賞】

つなげていくもの

六年 宮川 司おん

「あの時のおばあちゃんと同じ年になったんだねー。」と書き始められたおばあちゃんからもらった一通の手紙。その内容は、私とちようど同じ年に、おばあちゃんが経験した沖縄戦での話でした。

今から六十七年前、戦争がはげしくなってくるとお年よりや女性、子供達を沖縄からひなんさせる事になったそうです。その時、おばあちゃんも対馬丸という船でそかいといって家族からはなれ九州の方へいく事になっていました。しかし、船に乗る順番を後回しにされた事で命を救われたのです。乗るはずだった対馬丸がちんぼつしてしまったのです。そのちんぼつで、たくさんの子供達も死んでしまったそうです。

別の船で宮崎へ学童そかいしたおばあちゃん、その体験を手紙に書いていました。

こわい戦争の中、家族とはなれ知らない土地で過ごした時の事。いもや麦ごはんなどの食事では足りなくて、木の実を取って食べたり、きれいな雪の上ですててあるみかんの皮も食べたりした事。子供達を勇気づけるため音楽の先生が教えてくれた歌の事。

手紙を読んだ後もそかい船の事や戦争が終わった後の事などたくさんの話をしてくれました。

もし、あの時おばあちゃんが対馬丸に乗っていたらお母さんも生まれてこなかった事になります。そうなる私達兄弟四人も、今ここにいないのです。

「戦争って、なんてこわいんだろう。」

おばあちゃんの話を読み出すたびに、いつも考えてしまいます。家や自然、命あるものすべて失ってしまうからです。今ある命だけではなく、これから先にたん生するはずの命までもうばってしまうのです。すべての物もうばう戦争の中で生き残り、そして私達に命がつながってきた事はものすごく大きな意味をもつ事だと思えます。ですが、悲しい事に、事件や事故そしていじめがあつたり、自分の命を自分で終わりにしてしまつたり、いろんな事で命が途中で消える事があります。自分やまわりの人達の命がどうやつてここまでつながつてきたのか考えてみると、命の重さがわかってくるのではないのでしょうか。

私達は、生まれてきてお父さんやお母さん、おじいちゃんにおばあちゃん、たくさんの人に愛されて、ここまで大きく育ってきました。一人で育ってきたんじゃない事、手や心にその愛のあたたかさを感じてきた事を忘れずに、自分の受けたやさしさを他の人にもあげる思いやりの心が大切だと思います。

おばあちゃんが私にこう言いました。

「人間は、戦争によつてたくさんの人の命をうばつて自分達を不幸にした。

でも、生きていくために支えあい助けあつてきたのも人間。人の命をうば

う戦争が沖縄であつた事をたくさんの人達が忘れずにいれば、もう二度と

悲しい出来事もおこらなくなるよ。」

私達が今ここにいて、つながつてきた命の意味や出来事、重さをきちんと感じているかと言えば、正直今の私にはむずかしくてまだわからないのですが、つながつてきたこの命を意味あるものにするためにはどうしたらいいのか、これからたくさんの人と語り合いなから考えていこうと思えます。そして、今、

私を感じている「平和」という幸せが、すべての人に感じてもらえるよう平和をつなげていきたいです。